２０１７（平成２９）年度

事業計画

社会福祉法人ぷろぼの

2017（平成29）年　3月

p　b

目　次

■　理念とテーマ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

■　理事長メッセージ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2～3

■　統括部長メッセージ　平成 28 年度から始まる 10 年の構想～第 1 期：平成 28-30 年度～　・・4

■　2016（平成 28）年度の成果と反省　・・・・・・・・・・・・・・・・・・5～6

■　2017（平成 29）年度の方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7～10

■　2017（平成 29）年度の予算　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

■　2017（平成 29）年度の各事業所の事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・12～29

＜就労移行支援事業＞
　テクノパークぷろぼの生駒
　テクノパークぷろぼの高の原
　テクノパークぷろぼの新大宮
　テクノパークぷろぼの大和八木
　ＩＴセンター榛原

＜放課後等デイサービス事業＞
　ぷろぼのスコラ生駒校
　ぷろぼのスコラ大和八木校
　ぷろぼのスコラ新大宮校

＜自立訓練（生活訓練）事業＞
　アースカラーズぷろぼの新大宮
　アースカラーズぷろぼの大和八木

＜就労継続支援事業＞
　ＩＴセンター奈良
　ＩＴセンター大和八木
　ＩＴセンター榛原（Ｂ型）

＜就業支援事業＞

＜公益活動推進事業＞

＜共同生活援助事業＞

＜指定特定相談支援事業＞

理念とテーマ

活動理念（地域自立）

法人は、誰もが自立した生活ができる地域社会づくりを目指します。
・古都奈良の地を大切にします
・人にやさしい福祉ごころを育みます
・夢と勇気を持って日々努力します

テーマ（夢と目標）

下学して上達す
身近なことを根気よく学ぶことで、もっと大切なことが分かるようになります。
・六ヶ月後は夢を目標にしています
・一年後は目標に近づいています
・三年後は仕事で頑張っています

活動方針

プライドのある自立を目指して・・・障がい者の就労をＩＴで支援します
「就労支援」から「人づくり」「社会づくり」への取り組みをします。

「プライドのある自立を支援する」とは
・障がい者には、“安心と自信”を
・地域には、“役立つ社会人”を
・企業には、“戦力になる人材”を 創造することです。

Fellow Ship

仲間であること・共にすること・共同・協力
障がいのある方、地域の高齢者、子どもたち、だれもが
仲睦まじく寄り添い合える共同体として
地域の公益活動に一層の力を傾注していきます。

社会福祉法人ぷろぼの

理事長メッセージ

いつもは皆様からご高配をいただき感謝申し上げます。新たに 29 年度の事業計画書を作成いたしましたのでご一読ください。ぷろぼのが障がい者の就労支援を始めて１２年目になりますが、この間に２００名を超える就職者を送り出すことができました。これからも障がい者の就労を応援する活動に取り組んでまいりますので、よろしくご支援の程お願いいたします。

平成 29 年度事業目標

福祉事業総額	４４９百万円
経常増減差額	２９百万円
就職者数	２４人

ぷろぼの社会福祉のしくみについて

これは、障がい者が働き地域で自立した生活をするための要素を、障害福祉事業＋働く場づくり事業＋地域貢献活動の 3 つの Project に集約したものです。

Project１　就労訓練をする事業

障がい者が一般企業に就職し働いて経済的に自立した生活を応援する事業です。
お一人おひとりの就職への思いをお聞きして、目標と成果を個別支援計画にまとめ福祉的な訓練を行います。独自に開発した「ぷろぼの就労支援プログラム」では、「健康のこと」「生活のこと」「社会のこと」「働く技能のこと」の 4 つの項目から、働くことのイメージづくりや働き続けるために必要なことを習得していきます。

就労移行事業所（生駒、高の原、新大宮、大和八木、榛原）

自立支援事業所（新大宮、大和八木 4 月から開設）

放課後児童デイ（生駒、大和八木、新大宮）

Project２　働く場をつくる事業

障がい者が福祉的な支援を受けて、希望する職種で働くことができる事業です。

障がい者が就職できる企業や職種が奈良県内には意外と少ないので、専門家の協力を得て多様な働く場づくりに取り組んでいます。主にIT系、デザイン系、会計処理、データ入力、PC メンテナンス、科学標本の制作からお茶やヨモギの栽培までの実仕事があります。また仕事をイメージするために見学や実習をすることもできます。

就労継続支援A型、B型事業所（新大宮、大和八木）

就労継続支援B型事業所（榛原）

あたらしい・はたらくを・つくる福祉型事業協同組合（あたつく組合）との連携

Project３　地域貢献の活動

古都奈良を大切にする活動として、地域や学校、企業やNPOなどと連携した活動です。障がい者も生活する場は地域なので、住居や買い物、通勤などにも皆様のご理解が必要になります。主に、自治会や学校イベントなどへの参加、ITを活用した子ども向けのPCメンテナンスやシニア向けのPC教室の開催を進めています。また奈良クラブの応援や選手の雇用、サッカーの普及などにも取り組んでいきます。

公益活動推進室を４月に開設

ぷろぼのはITで障がい者の就労を支援する活動をしてきましたが、新たにWebシステム開発やロボット制御などが加わりました。一方では大和茶やヨモギの栽培、科学標本ブローチの製造などへと広がりを見せています。昨年開設した、新大宮の放課後デイサービスのスコラや自立訓練のアースカラーズでは、感覚統合などの基本アセスメントと社会性の訓練を包括させた取り組みも進めていきます。

私たちにとって“はたらくことは生きるための大切な行い”であるとの思いで、これからも福祉事業に取り組んでいきます。

以下に担当職員が作成した個別事業計画がありますのでご覧ください。

2017（平成29）年３月

社会福祉法人ぷろぼの　理事長　山内民興

平成 28 年度から始まる 10 年の構想　～第 1 期：平成 28-30 年度～

平成２８年度は、①ぷろぼの福祉ビルの竣工、②榛原事業所における障害福祉サービス事業の開始、③ぷろぼの福祉ビルにおける自立訓練（生活訓練）、放課後等デイサービス事業の開始等、１０周年の年を飾る大きな事業の完成と新たな事業のスタートを切った年でした。その中で、改めて、事業の基盤を作り上げるべく、①就労移行支援事業所に特化した事業所評価の実施・指導による事業所の質の改善とリーダーのレベルアップ、②ワークグループによる小集団活動を立ち上げ、自らが考動することによる自主性・積極性の醸成に取り組みました。

平成２９年度は、①平成２８年度の取り組みの更なる活性化、②就労継続支援事業に特化した事業所評価の実施・思考による事業の質の改善とリーダーのレベルアップ、③次代を担う人財の育成、④次代に繋がる事業の構想から具体化への取り組み等により、

・骨太の骨格をつくる！
　連続性を維持する事業の質の向上
　バランス感覚に長けた人材の集合による強い組織の構築
　整合性を担保するきっちりとした仕組みづくり

・筋肉質のＫＡＲＡＤＡをつくる！
　収益性を担保する事業の鍛錬（強みの強化、弱みの克服）
　成長性に繋げる事業の作り込み

・しなやかなＢＯＤＹをつくる！
　新たな事業展開を意識した先進的な取り組みに挑戦する
　障害福祉だけでない社会問題に対する挑戦をおこなう

ことを推し進め、平成３０年度の飛躍に向け、強靭な体質をつくりあげる年とします。

基盤をつくり、それを強化し、飛躍する・・・この繰り返しで、「ぷろぼの」の未来をみんなの力で作り上げていきたいと思います。

2017（平成 29）年　3 月

統括部長　米田　英雄

■ 2016（平成 28）年度の成果と反省

＜成果＞

１）奈良における福祉のシンボルとして、奈良県産の木材を使った最新の工法（CLT 法）による総合型障がい者支援施設（５階建てビル）が完成。

正式名称：ぷろぼの福祉ビル、通称：Fellow Ship Center として、7 月 19 日から事業を開始。

２）榛原事業所において、障がい福祉サービス事業を開始。

ぷろぼのにおける東和圏域の拠点として、開所した榛原事業所において、
4 月から「就労移行支援事業」＋「就労継続支援事業 B 型」の多機能型事業を開始。
リワークとして手帳・診断書のない方の受け入れを始める。

３）ぷろぼの福祉ビルにて、新規事業「自立訓練（生活訓練)」を開始。

自立した生活を営むために必要な訓練”自立訓練（生活訓練)”の場を提供すべく、
「アースカラーズぷろぼの新大宮」として、8 月 1 日より事業開始。

４）ぷろぼの福祉ビルにて、放課後等デイサービス事業を開始。

スコラ生駒、スコラ大和八木に次ぐ、放課後等デイサービス事業の３拠点目として、
「スコラ新大宮」を 8 月 1 日より開始。

５）ぷろぼの福祉ビルにて、食堂事業を開始。

「ぷろぼの食堂・フェローシップ店」として、利用者の方々や職員に加え、
一般の方にも利用いただける食堂として事業を開始。
Fellow Ship のシンボルとなる施設。

６）ワークグループによる活動展開

さまざまな事業活動をグループで取り組んでいく「ワークグループ体制」を構築。
各グループで活動を積極的に推進。

・事業改善委員会

利用者法人イベントＷＧ、安全衛生委員会ＷＧ、利用者獲得検討ＷＧ、
奈良クラブ活用ＷＧ、職員採用検討ＷＧ

・研究開発委員会

訓練開発ＷＧ、広報宣伝ＷＧ、研修検討ＷＧ、先進事例検討ＷＧ、
マテリアルチーム

７）３Ｒ新規事業化

中古パソコン、パソコンパーツの再生販売事業の伸長鈍化対策として、新たに、DVD ソフト・ゲームソフトの中古品再生販売事業を開始。
また、パソコンのデータ消去事業体制も構築。新たな顧客の開拓を推進。

8）**新しい就労移行プログラムスタート。**

「ぷろぼの＋」（高の原）、「合気道からだづくり」（榛原）等、新たな就労移行支援プログラムが開発され、スタートした。

9）**さまざまな団体との連携。**

Class For Everyone 様との連携によりパソコンの海外寄贈プロッジェクトの推進、たんぽぽの家様との連携による「奈良県障害者芸術祭 HAPPY SPOT NARA の一環で、実施されるワークショップ「みんなで遊ぶ新しいゲームを作ろう！」への参加等々ぷろぼの福祉ビルを起点として、さまざまな団体との連携が広がっている。

10）**カウント向上**

平成 27 年度低迷していた就労移行支援事業のカウントが向上。
各事業所の取り組みが奏功したものであり、今後の継続拡大が望まれる。

＜反省＞

1）**就労継続支援事業の伸び悩み**

Proide、ITY は、黒字経営が出来ているも、裕度は少ない。
Pac においては、就労という切り口で見ると厳しく、改善・改革が必要である。
3R については、就労・福祉という全体の切り口でも厳しい状況が続いており、新規事業での巻き返し、既存事業での改善・改革が必要と考える。
就労支援事業収入＜就労支援事業支出の現状を、少なくともイコールまでもっていける改善・改革が急務。

2）**新規事業の立ち上げ遅れ。**

アースカラーズぷろぼの新大宮、ぷろぼのスコラ新大宮については、ぷろぼの福祉ビル完成の遅れにより、開所が遅延した影響が大きい。
平成 29 年度に向けて、立ち上げ遅延の挽回を乞う。
IT センター榛原については、初の就労移行と就労継続の多機能事業所とした。
人口規模的には経営が本来であれば難しいところであるが、東吉野への玄関口、ローカルビジネスを起こすという意味合いも込めて特に実験的に作った経緯がある。
今後は、三重県への足掛かりという意味合いも込めて、利用者獲得を目指した営業活動を進めていく。

3）**新規事業の取り組み遅れ。**

新規事業は、通常、立上げ初年は「赤字経営」、2 年目で「収支プラマイゼロ経営」を目指している。（就労継続事業は「収支プラスマイナスゼロ経営」まで 3 年かかる）
立上げ初年で「収支プラマイゼロ経営」、2 年目で「黒字経営」を目指すことをスタンダートとして取り組むも、2 年前からの動きがキーとなる。
その中で、平成 29 年度事業のための取り組みに遅れがあり、この挽回が急務。

■平成29年度の方針

平成29年度は、フェローシップセンター建築という大事業のあとの力を蓄える時期とする。(平成30年の事業展開を見越しての人材育成を行う。)

また、広く認知度を高め、平成30年度からの飛躍に向けた事業基盤を整備する時期とする。

＜予算案＞ (百万円、%)

	平成28年度 計画	平成28年度 見込	平成29年度 計画案	前年見込比
サービス活動収入	３８１	４０６	４４９	１１０
内　就労支援	４３	４７	６５	１３６
内　福祉サービス	３３５	３５６	３８２	１０７
内　その他	3	3	2	—

1）収益力の強化

①平成27年度立ち上げ事業の収益拡大

・ITセンター榛原、アースカラーズぷろぼの新大宮、ぷろぼのスコラ新大宮

②就労移行支援事業・就職支援事業の再構築

・平成30年からの障害者雇用率の算定基礎に精神障害者が加えられることを受け、精神障害者の雇用促進に繋がる企業への支援事業に取り組む。
(企業への障害者雇用啓蒙活動、コンサル活動、定着支援活動等)

・奈良県内の就職先の開拓を行う。

・特例子会社から一般の企業まで幅広く就職先の開拓に取り組む。

③就労継続支援事業の再構築

・平成27年度の伸び悩みを打破し、収入＝支出をMINラインとした再構築に取り組む。

・残業０を当たり前にする。

④児童支援事業の再構築

・「子どもを安心して任せられるスコラ」づくり。

・新たな宣伝先の開拓。(養護学校から特別支援学級まで)

・スコラジュニアの取り組み

⑤新たな事業の開始、創出

・アースカラーズぷろぼの大和八木の開始

・社会的弱者支援事業の計画～創出

・養護施設の若者支援
「養護施設の若者に「活躍の場」と「未来」をつくる就労支援事業」の計画と取り組み展開

・就職困難者や生活困窮者を対象とした就労支援から働く場を提供するソーシャルファーム事業の計画と取り組み展開

・貧困対策事業の調査

・マテリアルチームの活動展開

ＳＢより譲渡される「Ｐｅｐｐｅｒ」を利活用した、さまざまな団体との連携とそこから生まれる新規ビジネスの展開

２）営業力の強化

①公益活動推進室創設による発信力の強化

・フェローシップセンターを拠点とした公益事業の実践

Pepper を活用したマテリアル事業の展開（地域・関係機関との連携）

様々な期間との繋がり強化

・市民活動との連携

・広報活動の推進等

・イベントの積極的な開催

②組織幹部及び組織を挙げての営業活動の展開（営業力の集中投下）

・営業活動への費用投下

③各事業における関係機関との繋がり強化

３）人財育成と強化

①職員研修の充実

・研修への費用投下

・関連団体との交換研修の実施

・スキルアップ研修、幹部研修など

②OJT、OFFJT による職員スキル、知見の拡充

③資格取得支援（対象資格を踏まえた職業能力体系の整理等）

④ワークグループの活動継続

・ワークグループ活動継続による職員の自主性の育成

⑤組織の機能と連携を念頭においた体制の見直し

・共同生活援助事業、特定相談支援事業を福祉事業の傘下に置く。

・就労事業を北和と東南和に区分して管轄する。

★福祉認証制度基準

・研修体制・人材育成方針

・人材育成計画の作成と共有、実践

・資格支援制度の構築と共有、実践

・新規採用者研修計画の作成と共有、実践

・専門技術向上に関する計画作成と共有、実践

・マネジメント研修の計画作成と共有、実践

・面談制度の構築（規程の制定）

４）管理体制の強化

①収支管理、分析精度の向上

・事業所別収支管理の浸透

・事業所別事業計画・実績管理の実践

②雇用改革

・賃金テーブルの制定とベースアップ

・給与体系の透明化

・有期雇用から無期雇用への転換促進

・有期雇用から正職員への登用促進

・パートタイム雇用職員、Ａ型雇用職員の時給ベースアップ

・介護、育児休業制度（法を上回る制度）の法人内周知徹底と適用者への実践

③労務管理体制の充実

・時間外労働実施時の申請～承認のルールの明確化、実践

・有休休暇の管理精度向上と取得促進（リフレッシュ休暇制度の導入検討）

・労働時間管理システムの導入による労働状況の管理精度の向上

・働き方改革

・業務の効率化の追求（労働時間短縮に繋がるシステムや制度の導入）

・ワークシェアによる特定者への業務の集中回避

④労働安全衛生管理の推進

・ストレスチェックの実施

・メンタルヘルスケアの取り組み促進（東吉野村構想の一環として実施）

・セルフケア、森林セラピー等

・メンタルダウン者の撲滅

（風通しの良い職場醸成）

⑤ワークグループの活動継続

・ワークグループの活動継続による業務の質の向上と内容の整備

★福祉認証制度基準

・キャリアパス・給与体系

・賃金体系の制定

・キャリアパスの制定（階層別職務内容）

・休暇制度・福利厚生

・有休休暇の取得促進、管理精度の向上（労働管理システムの構築）

・復職、継続勤務支援に関するプランの作成と共有、実践

・心身不調、ストレス解消に関する取り組みの構築と共有、実践

・コンプライアンス

・労働関連法の遵守

労働基準法、労働安全衛生法等

・個人情報保護に関する規程の制定と運営

・サービスの質の向上

・利用者、家族からの苦情対応

・サービスの向上に向けた取り組みの立案と実践

５）地域活動

・クリーン活動、花壇管理活動継続
・ボランティア活動への参加
・パソコン講座　外部委託による継続
・奈良クラブ応援プロジェクト継続
・地域小中学校との繋がり強化（地域活動の活性化に繋げる）
・奥大和(東吉野村・宇陀市)を中心とした森林セラピー等イベントの実施
・森林を守る山守を「谷林業・清光林業」と共同で育成する。
・ぷろぼの福祉ビルを拠点とした地域活動の展開

★福祉認証制度
・地域貢献活動の実施
・見学、体験学習、ボランティア受入体制の整備と実践
（規程の制定、管理表の作成、記録の保存等）
・実習、インターンシップ受入体制の整備と実践
（規程の制定、管理表の作成、記録の保存等）

6）将来事業の構想検討

・香久山構想（障がい者の働く場）
橿原市の生物多様性センターの展開と連携
・よもぎ加工場建設　→葉の加工、袋詰め等製品化が仕事内容。
・和製ハーブ園：ロダン21との協力　→身体にいい自然とのかかわり
・多様性センター・松本先生との共同取り組み
・子ども対象事業（保育所構想）
・東吉野村構想
・ぷろぼの以外の方のメンタルヘルス対策事業を検討する。
（吉野・東吉野の雇用対策への展開）
・よもぎ畑・家屋の購入もしくは借用による活動拠点の設置。
・山守（収入　木のテーブル等　月20万円以上の売上）構想
（人の雇用と、長期研修体制）

以上、法人全体の計画を踏まえ、各事業所毎に、「事業計画」、「年間活動スケジュール」を作成し、計画対比に基づく実績管理をして参ります。

以下、各事業所の「事業計画」、「年間活動スケジュール」を添付します。

社会福祉事業区分　資金収支予算書(当初予算)

(自)平成29年 4月 1日(至)平成30年 3月31日

(単位:円)

勘定科目			予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	65,116,640	43,000,000	22,116,640
		障害福祉サービス等事業収入	381,859,060	356,120,000	25,739,060
		その他の事業収入	600,000	400,000	200,000
		経常経費寄附金収入	300,000	1,100,000	△800,000
		受取利息配当金収入	60,000	60,000	0
		その他の収入	600,000	1,200,000	△600,000
		事業活動収入計(1)	448,535,700	401,880,000	46,655,700
	支出	人件費支出	257,007,662	228,148,000	28,859,662
		事業費支出	52,118,488	47,556,200	4,562,288
		事務費支出	25,990,000	28,092,380	△2,102,380
		就労支援事業支出	82,331,216	77,510,000	4,821,216
		支払利息支出	610,320	360,000	250,320
		その他の支出	1,000,000	1,340,000	△340,000
		事業活動支出計(2)	419,057,686	383,006,580	36,051,106
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		29,478,014	18,873,420	10,604,594
施設整備等による収支	収入	設備資金借入金収入		284,000,000	△284,000,000
		固定資産売却収入		500,000	△500,000
		施設整備等収入計(4)		284,500,000	△284,500,000
	支出	固定資産取得支出		465,135,600	△465,135,600
		施設整備等支出計(5)		465,135,600	△465,135,600
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)			△180,635,600	180,635,600
その他の活動による収支	収入				
		その他の活動収入計(7)			
	支出	積立資産支出	11,000,000	3,000,000	8,000,000
		その他の活動支出計(8)	11,000,000	3,000,000	8,000,000
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△11,000,000	△3,000,000	△8,000,000
予備費支出(10)					
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			18,478,014	△164,762,180	183,240,194
前期末支払資金残高(12)				242,704,777	△242,704,777
当期末支払資金残高(11)+(12)			18,478,014	77,942,597	△59,464,583

平成２９年度　事業計画

テクノパークぷろぼの生駒

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

人間中心の街づくり事業への参加。人間が、ここに住んでよかった、ここだったら住みたい、ここだったら生涯をおえてよいと思えるような人間関係を構築できるまちづくりに貢献する組織でありたい。地域で役に立つ人材を障がい者・健常者変わりなく育成できる組織となる。

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化
1,属性を絞った新規利用者へのアプローチに取り組む
大学・専門学校の最終学年において、要支援の学生をスムーズに配慮のある就労へつなげることを目的に取り組む。

２）営業力の強化
１．毎月の事業所見学・相談会のチラシを、生駒市・奈良市・生駒郡の図書館に常設設置する。

２、継続することとして、生駒市の支援機関への利用者の状況の報告や、パブリコの配布のための訪問。
利用者モニタリング時に、紹介機関への状況の報告の実施。
通所定着のために、新規利用者の不安軽減のために担当が一か月不安軽減のフォローに時間を使うこと。
モニタリング時に、通所日を増やす声掛けの実施の徹底をする。

３．保護者向け相談会の年二回実施

４、大学のキャリアセンター、通信制。単位制高校へパブリコ配布。

３）人材育成
１、業務一覧表の作成と業務フローの作成
２、一人一企画実施の取り組み。

４）管理体制の強化
１、業務一覧の作成と業務フローの洗い出し
２、災害対策のための防災訓練２回
３、障がい者虐待対策委員会の設置２か月に一回の開催
４、平井カウンセラーによるメンタルヘルス対策の職員への周知

５）地域活動
１、生駒バンド
２、祭りの参加
３、生駒市花壇管理の参加
４、アイネット：スポーツ大会、定例会の参加
生駒市暮らし部会参加
生駒市：包括支援員との懇親会・民生委員会への参加
５、ららぽーとの登録
６、マイサポ生駒の登録
７、アビリンピック大会への参加
８、奈良教育大デジタルアーカイブ化の支援

６）将来事業の構想検討
地域生活拠点事業への参加検討。
地域においてのぷろぼのの地活の役割を明確化。就労を目指す、就労している方のための地活のサービスとする。

平成２９年度　事業計画

テクノパークぷろぼの高の原

【基本方針】（どのような思いで臨むか）　『そうだ。　京都へ いこう』

H30 年度京都南部への事業拡大を視野に入れた運営。
利用カウント・就職者・定着も含め、安定した事業運営に取り組む。
ぷろぼのプラスの活用等、高の原事業所にとどまらず、他事業所・地域を巻き込む事業展開。
事業運営に左右されずに、利用者一人一人に寄り添える支援の実施

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化
- 冬季（1 月・2 月）を見越した新規利用者の獲得
- 利用者の出席率のアップ
- 通所のモチベーションを維持できる訓練・面談・雰囲気作り

２）営業力の強化
- 営業に行ける体制作り
- 京都南部中心に先方に出向く営業
- スコラ PC 教室の営業も絡めて養護学校（特に京都南部の支援学校）への営業活動
- 既存関係機関との一層の強化
- ぷろぼの持ち味・高の原（ぷろぼのプラス）の持ち味を簡潔にしっかり伝える資料作り

３）人材育成と強化

若手職員を中心に育成できるよう引き続き取り組む。
- 就業支援員について森の登用
- 訓練担当の中心としての徳山の起用
- 研修（外部・内部）等への積極的参加

４）管理体制の強化
- 受け持つケース担当数の均等化
- 業務の効率化→適正な業務分担を目指すための各業務マニュアル化
- 各職員の保養と休暇の充実　→　有給休暇消化ができる職員体制づくり
- 業務・ケースともに所長及び所長代理のフォロー

５）地域活動
- 従来の地位活動の維持（市民だより・商店街との連携（夏祭り））
- ぷろぼのプラス等の訓練やスコラ PC 教室と連動した地域貢献

６）将来事業の構想検討
- H30 年度　京都南部進出
- 養護学校の卒業生が取り組める IT 基礎のアプローチ
  → スコラ PC 教室との連携・スピード検定等も含めて
- ぷろぼのプラスの更なる活用
  1．事業所内に留まらず法人全体に向けた取り組み
  2．卒業生も巻き込める仕組み作り（卒業生の余暇活動支援として）
  3．＋FITNESS：既存の体力づくりプログラムのブラッシュアップ

平成２９年度　事業計画

テクノパークぷろぼの新大宮

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

他の就労移行支援事業所と比較して利用を検討する見学者が増えているため、事業のアピールやカリキュラムの改善を地域で一番魅力ある移行事業所を目指す。
カリキュラムをより仕事に近い形に改善し、見学・体験後に「ここに来たい」と思える事業所をつくる。
H28 年度は実習・一般就職が少なかったため、外部実習を増やし就職につなげる。

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化
・利用登録を増やす
・参加者が多い事業所イベントの実施
・訓練の再構築（就労に特化した訓練内容）

２）営業力の強化
・機関紙発行のタイミングで訪問
・研修・セミナーに参加し名刺交換と事業のアピールをする

３）人材育成と強化
・外部セミナーの参加
・勉強会の継続

４）管理体制の強化
・業務整理と担当の再振り分け
・職員面談の継続
・スコラ・アースカラーズ・テクノパークの連携

５）地域活動
・さわやかクリーン奈良の継続
・大宮まつり参加
・その他地域のイベントへの参加

６）将来事業の構想検討
・施設外就労の検討
・高の原・生駒・ITC との連携強化

平成２９年度　事業計画

テクノパークぷろぼの大和八木

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

・皆が生き生きした職場づくりを目指す
・中南和チームで動ける形を作っていく（仕事の割振りを協力して個々の負担を減らす）
・職員各々がステップアップできるような仕事の振り方を考える（研修制度で職員を送りだせる体制を作る）
・イベント21との関係作り＆有効活用化（良好な関係を築き今後に繋げていく）

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化
・利用者が成長できる環境・関わりを職員会議で定期的に検討し、環境・訓練の改善を実施。
・定期巡回でフォロー支援を実施。日中一時支援を申請し、卒業生支援にも力を入れる。
・自立訓練と就労移行で、利用者の状態像に合わせて受け入れる体制作り。特に、生活面の支援の多い利用者を自立訓練へ促すことで、就労訓練・支援に力を入れたプログラム・体制が可能となる。
２）営業力の強化
・支援機関へ4・5月と9・10月に定期的に訪問。パンフレット＆機関紙を定期的に置きに回る。（就ポツ、病院デイケア、市役所・地活、ハローワーク）
・今関わりのある支援機関と連携。特にブリッジ・ハローJobとは春・秋に交流会を実施。
・利用者の状況を定期的に関係機関の方に伝える。体験、利用更新、就活前の時期にケース会議開催。
・養護学校へはスコラ、自立と共に連携して春頃に訪問。
・デイケアへは自立とともに連携して訪問。
３）人材育成と強化
・研修担当者を決め、新人教育を実施。研修担当者と月１回打ち合わせし、研修状況・課題を検討。
・就労支援担当にはキャリア・コンサルタントの資格取得ないしは勉強をする機会を提供。
・職員の力の底上げとして八木自主勉強会開催。参加職員の企画・実施を奨励。
・各職員の目標に合わせ、年１回以上は外部研修・セミナーに参加できるようにする。
４）管理体制の強化
・チャレンジプログラム・ビジネスマナー・ジョブガイダンスをITHと共同で実施。職員負担の軽減、及び事業所間連携につなげる。
・支援計画書・利用契約の書類管理。月末に翌月更新日を確認、翌月中旬・月末に進捗を確認。
・職員の有給管理。有給取得率100%をめざし、取得を促す。
・9・3月をリスク対策強化月間とし、防災訓練、緊急時対応の確認、ヒヤリハット報告を実施。
５）地域活動
・なんとカンファレンス参加（2017年からは大和八木で中心に動けるようにする）
・地域のイベント等にもＩＴＹと協力して参加（物品販売等）。
・橿原市地球温暖化対策協議会「エコライフかしはら」への参加（ITYと協力）。
・ウォーキング時にあいさつ運動や清掃活動等取り入れる等、地域の方との関わり方法を考える。
６）将来事業の構想検討
・橿原市昆虫館での展示会・イベントの開催（H29年度特別展示室の利用、ITYへ協力）。
・就労をテーマとした出張講座を養護学校、地域のクリニック、デイケア、関係機関で実施。
・ITYのソーシャルファーム事業と連携し、必要な方に対しビジネスマナー等訓練に入れる体制作り。

平成２９年度　事業計画

ITセンター榛原

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

○宇陀市、名張市の誰もが自立した生活が出来る地域社会づくりを目指します。
・ぷろぼのらしさの体現
（ぷろぼのと言えばITという空気感、事業所づくり、IT訓練体制の強化）
・地域との連携強化
（児童養護施設との連携、地域イベントへの参加）

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化
・宇陀市（地域づくり）として連携、名張市（相談支援機関交流会、就ポツ関係強化）との連携
・ぷろぼのらしさとITを打ち出した榛原オリジナルのパンフレット作成
・八木と連携した訓練、実習の共同実施

２）営業力の強化
・宇陀市、名張市の支援機関との密接な連絡、パンフレット、パブリコ配布訪問
・毎月の事業所見学（魅せる見学内容）
・通信制/単位制高校、普通高校、大学、短大へのパンフレット、パブリコ配布定期訪問
・ペッパーを使った集客（プログラミングカリキュラムの試行）

３）人材育成と強化
・中南和として職員間連携を取りながら研修実施(八木自主勉強会も含む)
・各職員の業務の目標設定（目標を数値化し毎月定例的に各PDCAの相互チェック）

４）管理体制の強化
・組織図の作成、見直し
・就労支援システムの構築（中南和連携）
・防災訓練の実施、災害時の連絡網の作成
・ケース検討の実施
・リスク情報の共有化を図る（事業所のリスクを洗い出し）

５）地域活動
・大和育成園とのPC教室
・宇陀産フェスタ・菟田野人権フェスタ

６）将来事業の構想検討
今年度は地域のニーズを拾い上げるなど調査の年にしたいと考えています。

平成２９年度　事業計画

ぷろぼのスコラ生駒

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

支援の質を向上させる。支援の効果性を高める。

スコラの利用者については、内面の基礎的なスキルと外の世界に合わせるスキルの両方を身に付けていくことが必要と考えます。平日の通常プログラムでは、発達段階に合わせた課題設定をし、身体の使い方やコミュニケーション力や巧緻性などの基礎的な力を身に付けていくことを狙いとし、休日のイベントなどのプログラムで、高校生や社会人としての外の社会でのふるまいやルール、身に付けた力を使って日常生活を楽しむことを経験していってほしいと思います。

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化

・月 24 日開所し、現利用者が 2 回追加して参加できるようなイベント、講座を行う。

・新規利用者を中１から受け入れる。

２）営業力の強化

・他デイサービス、相談支援との連携を引き続き進める。ケース会議の開催、合同イベントの開催など。

・中学生の受け入れについて各学校、支援機関に告知する。

・進路選択について講演会を開催。

３）人材育成と強化

・就労に向けて必要な力をアセスメント、指導できる力を身に付ける。

・各研修の振り返り、自主勉強会として共有していく。

・山本：保育士資格取得。自閉症Ｅサービス研修参加。

・岩田：行動援護者研修参加。

４）管理体制の強化

・利用者３人に対してスタッフ１人になるよう、余剰人員が出ないようにシフト、振休を調整する。

・書類、手続きを定期的に確認するしくみを作る。毎月確認する。

５）地域活動

・長期休み期間などにはららぽーとへのボランティアなど、地域に出る活動を開催する。

・学校行事、他機関の活動、講演などにスタッフが積極的に参加する。

６）将来事業の構想検討

・就労した卒業生向けの講座等カリキュラムを作って開催。（日中一時または自立訓練）

平成２９年度　事業計画

ぷろぼのスコラ大和八木

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

・利用者との信頼関係を築き、小さな「できた」を多く積み重ね、大きな「成長」ができる場にする。
・成長を実感することで自信がつき、将来の進路を自分で選択していけるようにする。
・保護者や学校、支援機関と情報共有していくことで、「就職や進路選択につながる力が身につくこと」や「目標に対する成長」を実感してもらう。スコラを利用する価値を感じてもらう。
・保護者、学校に対して、スコラが「信頼して任せられる」場所にしていく。

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化
　○利用回数の増加
　　・利用者が来所を楽しみにして利用してくれるように、プログラムへの積極的な参加を促す。成長したところを伝えつつ、丁寧に関わっていく。
　　・保護者へプログラム効果、成長を伝えることにより、月々の利用回数を増やしていく。
　　・利用者が参加しやすく興味に合わせた土日のイベントを開催し毎回５人以上利用を目指す。
　○利用人数の増加
　　・養護学校・相談支援所・地域の放課後等デイサービスへの営業活動の計画を立て、定期的に訪問する。
　　・中学生向けスコラジュニアの検討、導入。養護学校中学部、地域の中学校向け営業活動の実施。
　　・特別支援学級児童の受け入れ。営業活動の実施。

２）営業力の強化
　○保護者向けスコラ見学会、本人向け体験会を定期開催。（見学会：毎月１回、体験会：夏休み・春休みに１回）
　○橿原周辺地域の放課後等デイを訪問し、中・高校生受け入れなどで連携できるようにする。
　○支援者・保護者会など、地域ネットワークへの参加（KissA 等）
　○養護学校や相談支援事業所に定期訪問。（年度初め、機関誌発行時、八木チームとして）
　○地域の活動、イベントにも積極的に参加し、スコラの認知度を高めていく。

３）人材育成と強化
　○吉岡：スコラ合同イベントの成功、企画、運営能力の向上。
　○自立訓練職員：体力プログラム、ソーシャルプログラム進行を習得。 多機能事業所として業務連携する。
　○実習生：PC プログラム進行、会計補助、保護者向け郵便物発送業務を行う。

４）管理体制の強化
　○利用者ケース検討の実施。(1 回/月)
　○6 か月に１回保護者面談を実施し、目標を設定（個別支援計画への落とし込み）
　　面談以外にも、月に１回連絡を取り、近況を聞き取ることで、状況に即した支援をする。
　○移行・自立訓練との事業連携（長期休暇プログラム）
　　・ＴＰ八木と連携した就労体験、就労訓練プログラムへの参加
　　・ＥＣ八木と連携した生活訓練
　　・ＩＴＹと連携した体験実習、出張作業体験

５）地域活動
　○地域の団体との共同イベント開催（NASC 等）
　○地域イベントへの参加

６）将来事業の構想検討
　○中学生向けサービス（スコラジュニア）の検討。
　○地域の学校の支援学級等、営業先を拡大する。
　○地域の放課後等デイサービスと連携し、共同イベントを開催。
　○スコラ→ＥＣ・ＴＰとの支援プログラムの連携（サービス移行率の向上、スコラから就労が目指せるサービスを提供する。）

平成２９年度　事業計画

ぷろぼのスコラ　新大宮校

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

スコラ新大宮校の支援の流れを作っていく。流れを作るための２つの要素として「盛り上げる」「体力をつける」ことに重点を置く。
盛り上げる…利用者がプログラムに参加しやすく楽しいと感じる環境や雰囲気作りを行い、利用者主体によるプログラム運営や「スコラに行く」を目指す。
体力をつける…業務分担や情報共有、管理などを整理し適切な支援を行える体制づくりを行い、スコラ新大宮としての運営力を身につけていく。

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化

利用回数…週２回以上の利用をお勧めしていく。新大宮の利用者さんは福祉サービス初利用と他デイ併用が半々の状況。他デイ併用の方の保護者はスコラの回数を増やしていくとの考えをもっておられる。週２回利用を維持し時期や学年にもよっては週３回以上の利用を進める。そのためには保護者が「スコラで子どもが成長した」という実感が必要。懇親会、保護者同伴イベントなどを開催し、活動を見学できる機会を提供していく。

２）営業力の強化

地域の中学校への営業活動。中学校３年生を対象とした見学相談・体験を夏休みに行い９月からの利用体制を作り、高１から本格利用できる流れを作っていく。

３）人材育成と強化

パート職員の雇用。

４）管理体制の強化

利用者の安全管理について特に気をつけて行く。環境要因(気温の変化、感染症の流行、物の配置等)と人的要因(障がい特性、アレルギー、体質等)を整理し、それぞれ適切な対処を行うことを目指す。有事の際には迅速に関係者に連絡や確認を徹底し、二次被害を防ぐ。

５）地域活動

奈良の文化や自然に触れるイベントを実施していき、奈良の良さを感じていく(奈良公園お花見、散策など)。また、奈良クラブ応援も行っていく(月１回)。

６）将来事業の構想検討

障がいのある高校生がアルバイトをしてお金を稼ぐことがしやすい体制づくり、もしくは受け入れ先の開拓などやってみたい。

平成２９年度　事業計画

アースカラーズぷろぼの新大宮

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

アースカラーズ新大宮として丸１年となる年であり、初めての年度初めである。人数もある程度増え、フル稼働をイメージしたカリキュラムで実施できるようになる。自立訓練の２年間を通して積み上げていけるカリキュラムとして実施しながら完成させていく。
地域のニーズ、訓練生のニーズを見ながら、カリキュラムや対応を調整し、ぷろぼのの「自立訓練」を「就労へのつなぎ目」として位置づけていく。

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化
　イベント：土日イベント、施設外イベント、新大宮合同イベント等
　出席率アップ：こまめな声かけ、面談、目標と達成感、楽しい訓練
　日中一時：居場所、卒業生支援
２）営業力の強化
　養護学校への営業：春の懇談会や夏の実習の前に訪問
　関係機関訪問：パブリコに合わせて訪問
　関係機関へのこまめな連絡・ケース会議
３）人材育成と強化
　新人研修、ぷろぼの研修、その都度指導
　事業所勉強会：毎週実施
　セミナー参加：外部セミナーへの積極参加
４）管理体制の強化
　職員面談：月１回実施。その都度実施。
　シフト・年休管理：毎月シフト作成時に確認
　働きやすい職場作り：仕事の見える化、効率化、整理
　TP・EC・スコラ職員合同会議：月１回実施
５）地域活動
　大宮祭りへの参加
　奈良クラブ応援
６）将来事業の構想検討
　D+P と連携し、コンポーザーを養成し、クレッシェンドを開催する
7）その他
　保護者交流の場作り
　一周年記念イベントの開催

平成２９年度　事業計画

アースカラーズ大和八木

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

「地域から自立訓練、自立訓練から就労移行へとつながる事業づくり」
・「社会に出たい」「力を付けて働きたい」方が最初のステップとして利用できる事業所にする。
・就労移行に参加できない方、通えない方が、２年後に就労訓練につながれる力を付ける。
「事業の基盤づくり」
・関係機関等の方にも大和八木にも自立訓練が出来たことへの周知。
・利用者獲得の年にする。　・ＥＣ新大宮を参考に事業所体制作りに力を入れる。

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化
・皆が来たいと思える雰囲気作り。職員は毎日必ず全員の利用者と話す機会を作る。
・日報時にその日できたことを一緒に確認し、成長・自信を感じられるようにする。
・関係機関やご家族等への定期的な状況報告（月１回）。体験・利用更新・移行を検討するタイミングでケース会議を実施。
２）営業力の強化
・デイケアへの訪問（移行事業所と一緒に）
・養護学校への訪問（スコラと一緒に）
・４月10日～12日に内覧会を開催。主要支援機関に案内を送付。
・６月に自立訓練見学会を開催。主要支援機関に案内を送付。
３）人材育成と強化
・外部研修に積極的に参加（自立訓練・公文研修など）。
・４月に公文研修に参加、外部施設への見学を実施。
・スコラ職員も自立訓練プログラムが実施できるようにする。（４～５月に研修）
・自立職員もスコラの基本的なプログラムが実施できるようにする。（４～６月に研修）
４）管理体制の強化
・八木チームでフォローできる体制を作る。10月～八木職員の研修受け入れ。
・週次ミーティング実施、ケース検討実施。
・支援計画書・利用契約の書類管理。月末に翌月更新日を確認、翌月中旬・月末に進捗を確認。
・職員の有給管理。有給取得率100%をめざし、取得を促す。
５）地域活動
・奈良クラブ試合の橿原開催時に応援イベントを実施（引率は八木チームで協力）
・地域のデイケアと共同で地域移行プログラムを企画。体験利用の積極的受入れ、出張講座。
定期営業時に医大デイケアおよび秋津鴻池病院デイケアへ提案。
６）将来事業の構想検討
・自立訓練→就労移行支援という流れを作っていく。２年目の方へ移行の体験実習を実施。
・土曜日開所を検討。スコラ大和八木、TP八木と共同実施できる体制を作る。平成30年度より開始。

平成２９年度　事業計画

ITセンター

【基本方針】（どのような思いで臨むか

・事業収支バランスの追求
　就労支援収入＞就労支援支出を達成する事業内容の再構築
・職員の残業ゼロ
・施設運営の健全化（書類、手続関連の適正管理）

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化
・新規顧客の獲得
・既存事業の見直し、生産性の高い仕事へのシフト

＜３Ｒ＞

Pepper 事業
・Pepper カフェを教育大付属中の協力で月１開催を計画中。
・Pepper 保守契約を行う。2 社より要望有。
　奈良で 10 台所有事例や保守事例がなく県内独占できる。

ﾊﾟｰﾂ再販縮小
・下落した市場で収入源として難しい、年に 3 回仕入に制限

PC 再販強化
・内部入替、PC 保守契約、ヤフオク販売、PC 仕入れを強化し出荷件数を増やす。

ﾋﾞﾃﾞｵ再生委託事業
・VHS を DVD にダビングする委託作業。

２）営業力の強化
・営業力のある企業、クライアントとの連携強化
・あたつく組合との連携強化

＜Ｐａｃ＞
・営業力のある会計事務所との連携を強化していく。Pac が、単独で営業するのではなく、Pac に理解を示してくれている会計事務所へ、他の会計事務所を紹介していただけるようにキャンペーンなどを企画していく。

３）人材育成と強化
・各スタッフの課題の明確化と強化

４）管理体制の強化

・各事業の業務フロー（行程）の見直しと効率化

・各職員、スタッフの役割を明確化

・スタッフで完結できる仕組みづくり

５）地域活動

＜３Ｒ＞

Pepper カフェ

福祉ビル５F で月１回定期的に行う。年度後期に Pepper ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ教室を計画。

海外寄贈イベント

寄贈 PC 台数を増やし、一般の方や利用者ご家族と参加枠を拡大。

６）将来事業の構想検討

<Proide>

・Port の販売計画

＜３Ｒ＞

Pepper 事業

ﾛﾎﾞﾃｸｽ、ﾃﾞｨｰﾌﾟﾗｰﾆﾝｸﾞなどはこれから拡大する産業として有望。

Pepper で得た技術を新たな製品として開発する事を３年後に目標とする。

様々な団体、企業と共存共益で利用者が社会に参画できる仕事を目指す。

＜Ｐａｃ＞

入力チームによる新規事業の検討

平成２９年度　事業計画

ITセンター大和八木

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

「共に成長・ともに喜べる職場へ」

１人１人が仕事で役割と責任を持ち、＜成長できる場＞＜やりがいを感じられる場＞にする。

B型工賃を300円以上にし、ITYで働くことが生活基盤になるようにする。

「社会との感動・広がりのうまれる職場へ」

サイ◇コロ・よもぎ商品の取引先を増やし、一般の方が商品を通じてぷろぼのとつながる。

パートナー事業の拡大に寄与し、お客様を感動させる。ノウハウを積み重ね、独自事業へつなげる。

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化

○商品製造事業

・新しい機器・治具の導入：作業個数増大、作業時間の短縮につなげる。助成金を活用。
・目標設定：全体目標・利用者個人目標を設定。意識付けで品質・速度を向上(平成28年度継続)
・受託業務の増加：ブックマーカー材料製造の本格稼働。外注から製造へ切り替え。
・別注対応体制：外部委託・独自事業で別注・OEM対応可能な体制(データ制作・試作・製造)をつくる。

○販売事業

・管理システムの導入：マンパワーでカバーしている状態から脱却。業務の精度向上、時間短縮へ。
・実習生・B型スタッフで基本的な業務が回るように、マニュアル化・研修方法の確立。
・SNS・ブログを活用した広報活動の実施。担当者を決め、週2回→毎日発信。メルマガ・法人広報との連携。

○システムコンサルチーム

・職員1名を配置：進捗管理、利用者のフォローができるようにする。エム・エー・ディー様・フリープログラマとの調整。
・月次ミーティングの実施：メンバーで課題・改善点を共有（平成28年度継続）
・システムコースの設置：ウェブ学習からシステムチームでの実践経験、就職のコースを作る。
・連携先を増やす：ITCとの連携に加え、社会福祉法人すいせい様、ITHと連携先を増やす。

○顧客管理事業

・名刺入力の必要項目整理。職員から名刺を月1回回収することをルール化。メルマガ配信率向上。
・セキュリティ・管理体制の向上。

２）営業力の強化

○利用者獲得

・各事業所移行からの見学会を4月・7月・10月・1月に定期実施。システムチームのみの見学会は、別途5月・11月実施。
・システムコースの設置。　・B型利用説明書作成、移行でも案内

○商品販売

・販売：展示会・商談会への参加。展示会年1回、商談会年2回。奈良商談会@東京によもぎで参加。
・新商品開発(サイ◇コロ)：月1回新商品を開発し、取引先へカタログ配布。JAXA・野鳥の会との開発。
・新商品開発(よもぎ)：よもぎ研究者の協力を得て、収益率・販売力の高い商品を開発する。
・別注対応：フェリシモ様で定期受注・定期別注受注の流れを作る。定期的な商品開発提携の会社をつくる。

３）人材育成と強化

・池田（販売担当）：商品販売・顧客感動についての基礎知識を学習。利用者面談の習得。
・システム担当：基本情報技術者検定の学習、HTML/CSS/PHPの学習。業務スキルはOJTで研修。
・製造担当：商品開発の試作・製造を担当し、技術習得。作業を通じて利用者の成長を促せるように。
・各職員の目標に合わせ、年1回以上は外部研修・セミナーに参加できるようにする。

４）管理体制の強化

・ケース検討の実施（4月より月1回）　・チームごとの週次ミーティングを実施。報告・管理体制をつくる。
・B型工賃300円以上へ　・支援計画書・利用契約の書類管理。月末に翌月更新日を確認、翌月中旬・月末に進捗を確認。
・6・12月をリスク対策強化月間とし、防災訓練、緊急時対応の確認、ヒヤリハット報告を実施。

５）地域活動

・橿原市地球温暖化対策協議会「エコライフかしはら」への参加。
・「サイ◇コロ基金」の設置。寄付だけでなく、助成事業を募集する。

６）将来事業の構想検討

・サイ◇コロファンクラブ事業
・香久山事業：薬草観光農園、地域ネットワークとの共同事業。　・橿原市昆虫館の指定管理（清掃、受付販売）

平成２９年度　事業計画

ITセンター榛原(B型)

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

○宇陀市、名張市の誰もが自立した生活が出来る地域社会づくりを目指します。
・世間に必要とされる商品開発
・収支バランスの取れた運営

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化
・新商品開発の為の人脈作り
・自伐木材による商品製造
・受託作業の作業効率促進
２）営業力の強化　（ＩＴＹ）
・ＨＰ作成で新規顧客の獲得
・ＳＮＳを使った広報
・チラシを使った通信販売での高齢層へのアプローチ
・イベント出店での販売&広報
・ラインナップ数の増加（ティーバック、業務用）
・ＰＬ保険加入
・よもぎ会議毎月実施（ＩＴＹ―ＩＴＨ）
３）人材育成と強化
・法人内外への働く場の見学を実施
・八木自主勉強会への参加
４）管理体制の強化
・利用者、職員間でのヒヤリハットの徹底共有
・危険意識向上への取組み（利用者に対しての講習など）
５）地域活動
・祭事へ参加
・関係機関とのコラボ商品開発
６）将来事業の構想検討　（大和八木共同事業構想）
・香久山（ITY と共同実施）…橿原市香久山地区でネットワークをつくり、イベントを実施。
・商品開発…よもぎ新商品の開発（ITY と共同実施）。よもぎ風呂・よもぎ茶の他に、より販売力の高い・収益率の高い商品を開発する。開発には、よもぎ研究専門家にも関わっていただく。
・加工施設…中南和地域によもぎを含めた農産物加工施設を開設する。よもぎ風呂・茶などの加工を自主工場で行えるようにする。
・林業…奈良県の面積の約 7.6 割が植林地という豊富な資源を活かし今まで守れてきた林業の技術や伝統を継承していくために谷林業様、清光林業様と連携し技術を学び可能性を探る。また森林のもたらすリラックス効果(フィトンチッド)を利用しメンタルヘルスにもつなげていく。

平成２９年度　事業計画

就業支援事業

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

働き方を考える、障害者が楽しく働き続けるために

１．アクティブな組織体

２．一つでも多くの就職先をつくろう

３．働き続ける人の応援団

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化

１．定着支援の推進（定着支援の加算）

２．一定数の就職者確保（25 名～30 名）…実績の積み重ね→信頼→紹介者の増加

２）営業力の強化

１．特例子会社 11 社＋αへの定着支援と実習→雇用を進める

２．ハローワーク、就ポツへの定期訪問→連携

３．奈良県内企業への見学会・実習

３）人材育成と強化

１．就労支援員の企業訪問

２．新規実習先の開拓（企業との折衝力）

３．職場適応援助者研修の履修

４）管理体制の強化

１．月１回の会議

２．事業所業務との兼ね合い調整

３．見学会・実習・定着支援の情報共有（対企業）

５）地域活動

１．企業とのコラボ（従業員研修などの実施）

２．地域でのコワーキング（スコラとの連携）

６）将来事業の構想検討

１．定着支援事業所制度化への対応

平成２９年度　事業計画

公益事業推進事業

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

ぷろぼのを全国区にする事業	＊Ｈ２７～Ｈ２９（事務局指標を継承）
高い社会的インパクトをもたらす事業	＊Ｈ２９～Ｈ３１
善意の資金循環を奈良に生み出す事業	＊Ｈ２９～Ｈ３１
FellowShip 型の資金調達体制の整備事業	＊Ｈ２９～Ｈ３１

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化　　：資金調達体制を整備する取り組み
- 会員制度「FellowShipClub」
- 寄付キャンペーン
- 不要ＰＣの寄付キャンペーン

２）営業力の強化　　：ブランドを向上させ、全国に情報を伝えるための取り組み
- 奈良クラブバモス支援事業
- ＳＮＳでの広報事業　　・各種イベントの実施

３）人材育成と強化　：ボランティア、協力者を獲得し、育成する事業
- ボランティア、プロボノワーカー登録制度
- プログラミングカフェ　　＊月１回　土日午後。
- ボランティアデー　　＊月１回　平日夜。
- ならＰＣリユースデー　　＊年間２回

４）管理体制の強化　：会費、協力者の管理。クラウドを活用した効率的な管理。
- 会員制度ＣＲＭツールの導入　　＊SalesForce（無料）を検討。
- ボランティアマネジメント
- 助成事業の申請、報告管理
- 社会的インパクト評価基準の作成

５）地域活動　：　FellowShipCenter を拠点とした地域貢献事業
- 「ならフェローシップ基金（仮称）」の設立
- FellowShipCenter の防災拠点整備事業　（AED の設置、備蓄品の購入）
- 森の講座開催事業
- 研究会の実施（ファンドレイジング研究会、ＮＰＯ事務会計研究会）

６）将来事業の構想検討　：　将来の収益事業化を見据えた事業
- あたつく組合との連携事業　　・マテリアルプロジェクト
- ＮＰＯ事務会計支援事業　　・子どもの貧困事業

２０１７（平成２９）年度　事業計画

共同生活支援事業

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

ぷろぼののサービスを利用中または利用後就職した方が、地域で自立した生活を送るために生活支援を受けながら自分らしく暮らしていく場所として、グループホームを提供しています。日々の暮らしの場所としてだけでなく、そこに居ることで、安らぎを感じたり、疲れが癒されたり、楽しい集いがあり、新たな発見が得られる、そのような住空間を提供できるような支援に取り組んで参ります。

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化

現在、奈良市内に１カ所（部屋数４）のグループホームを、働く場の多様な働き方に合わせた展開を検討する。

２）営業力の強化

グループホーム経営の基盤構築が優先。
自立を支援するグループホーム構想の実現を目指す。

３）人材育成と強化

グループホーム事業に注力できる人材の確保と組織の編成が鍵となる。
共同生活支援事業を組織の連携と役割の切り口から、福祉事業の枠組みの中で、検討を重ねていくものとする。

４）管理体制の強化

足下のところでは、管理体制の充実が必要な状況にある。
毎水曜日の食事提供が自立とは言え、自己責任のもとでの手配となっている。
支援体制の確立が急務。
ぷろぼのの人材による管理体制をいかにしていくかに加え、外部委託による管理体制の構築も視野に入れた体制づくりを模索していく。

５）地域活動

地域と連携できる活動を検討、取り入れていく。

６）将来事業の構想検討

働く場、訓練の場から拡がる共同生活の在り方を見極め、各事業所の事業展開と絡めて、共同生活支援事業の展開を模索していく。

２０１７（平成２９）年度　事業計画

指定特定相談支援事業

【基本方針】（どのような思いで臨むか）

障がい福祉サービスの利用にあたって、その手続きのうえで、利用者個々の状態や生活状況及び意向等のニーズに基づいたサービスが提供できるよう、本人に寄り添った木目細かな相談業務に取り組みます。

【活動計画】（どのような取り組みを行うか）

１）収益力の強化
計画相談、モニタリングの日程管理の精度向上と木目細かな対応による確実な請求業務の遂行

２）営業力の強化
―

３）人材育成と強化
相談支援員有資格者の育成に取り組む。

４）管理体制の強化
相談支援員と移行支援事業所の連携強化を図るべく、移行支援事業組織の傘下に特定相談支援事業機能を組み込む。
計画相談、モニタリングの日程管理の精度向上を図るとともに、請求業務との一元管理に取り組む。

５）地域活動
―

６）将来事業の構想検討
将来は、外部の相談支援機関との連携を深め、外部の支援の力も含めた相談支援事業の確立を目指す。